



発行者:社会福祉法人じねんじょ
発行日:令和4年4月1日
TEL:083-252-2227
FAX:083-252-2259
E-mail:jinenjo@jinenjo.or.jp
http://www.jinenjo.or.jp

VOL.
37
2022/4

大地

(じねんじょ通信)

相談支援専門員の仕事 ~介入・モニタリング~

これまで「アセスメント」と「プランニング」について書きましたが、今回は「介入」と「モニタリング」についてです。

「介入」とは計画に基づいて利用者の生活に介入していくことです。いわゆる「支援」や「サービス」と呼ばれるものです。介入には直接的なものと間接的なものとがあり、生活介護や居宅介護等のように直接的に利用者に関わる支援を直接介入、相談支援専門員がサービス全体を調整する間接介入があります。

いったん計画ができて計画通りに動き始めると、私たちは安心してしまいがちですが、利用者の「変化」に敏感でなければいけないと思っています。「変化」には、よいものも悪いものもあります。この変化を確認する機会として、「モニタリング」があります。これは計画が適切に実施されているか?目標の達成度は?サービスは適切か?などを観察することです。モニタリングには外側から観察する側面もありますが、利用者自身の内側から観察するという側面が重要と言われています。

実際のモニタリングでは「特に変わりないです」「今までよいです」という場合もありますが、どのようなことが助かっているのか、いいなと思ったことは何かなどを尋ねてみることも大切だと研修で学びました。その内容を支援者間で共有できれば、仕事の励みにもなると思いますし、具体的に尋ねてみると、「実は…」というほんの少しのことだけれど、気がかりなことがあるということがわかったこともあります。

利用者やご家族の貴重な時間をいただくことになりますが、できるだけゆつたり時間をとってお話をできるようにしていきたいと改めて思っています。



あーと・ルーム「ポスコン?!2022」

秋吉台国際芸術村で開催されるポストカードコンテストに、今年も活動で取り組んだパステル画を応募しました。

メンバー2名の作品が、入選と村長賞に選ばれました。応募総数1100作品の中からの受賞です!!

これからもメンバーの感性がより豊かに表出できるように、日々一緒に過ごす時間を大切にていきたいと思います。



Jマルシェ

喫茶グループ

令和3年12月20日(月)～12月24日(金)にJマルシェで初の地域へ向けたテイクアウトを実施しました! 5日間(午前中)で合計52名の方に足を運んでいただけました。大学生、ランニング中の方、病院帰りのお年寄りなど地域の方々と交流を深めることができました。メンバーの体調や特技を考えながら、仕事を分担し、助け合って取り組むことができました。

12月27日(月)には反省会を行いました。時間帯で分担すればもっと開店時間を長くできるかもしれない、ご年配の方には緑茶やほうじ茶などの方が好まれるかもしれないなど、様々な意見が出ました。

今後、改善しながら継続的にJマルシェを開店していくことでもっと定着していくと良いなと思います。



地域交流グループ

コロナ禍であっても、どうしたらJマルシェが開催できるかを考え、カウンター越しのテイクアウトや、作品の展示販売に限定など、様々な形で取り組んできました。

その中で、カフェエリアに活動の映像を流して、地域の方に少しでも楽しんでいただけるようなイベントを、地域交流グループで考えました。「はらぺこあおむし」のペーパーサートを撮影し、それを映画やBGMのように、楽しんでいただける工夫をしました。

店頭に立つメンバーや職員、来店してくださったお客様からも好評をいただきました。日々の活動紹介にもつながる良い機会と思い、様々なバージョンで今後も投影していきたいと思います。

Jマルシェに寄られた時には、作品に加え壁面にもぜひご注目ください。



手芸グループ

毎月のJマルシェ開催に向けて、メンバーが「毎日こつこつ」と、作品作りに取り組んでいます。さをりを織る活動では、糸の色選びをしたり、糸巻きをしたり、機織りを動かしたり、地道な作業ですが、仕上がりを楽しみに、そして皆さんに見て頂くための作品の為に、沢山のメンバーがかかわり日々頑張っています。糸巻きには、楽器のバチのような長い物に通し、メンバーが自分で持てるように工夫しています。

作品には“Jマルシェ”的Jマークが押してある作品があります。これもメンバーがスタンプを押しやすいように空き箱に張り付けて持ちやすいように工夫しています。“Jマーク”の入った作品は人気商品の一つです。Jマルシェ開催時には、作品をお楽しみに!!



陶芸グループ

Jマルシェに向けて、棚から作品を取り出して運ぶ係、シールに値段を書く係、シールを運ぶ係、陶芸作品をカゴに入れる係と、一人ひとりができる事をしてもらいました。

粘土に触れて、陶芸作品を作る時間もいいけれど、販売に向けての準備も、いい時間だったのではと思います。

作品を作ったり、きれいに並べたりするのも良いけれど、ステキな使い方も、考えていくといいなと思います。



じねんじょ体操

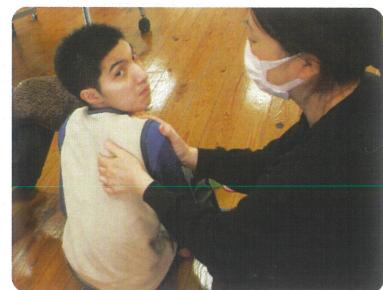
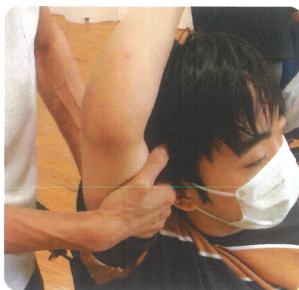


スポーツグループ

朝来所したメンバーの体が硬いね、一日の始まりにメンバー全員が行えるような体操があつたらいいね、という話からオリジナルの「じねんじょ体操」を作りました。

まずは朝の会の体操時間を利用し、メンバーの体の中心から手先、足先と全身をほぐしてスムーズに活動に入るための準備をしています。また午後活動の時間にも、メンバーが気持ちよくなつてもらえるように、声かけをしながらゆっくりリラックスする体操としても取り組んでいます。

ラジオ体操の音楽が流れる中、声をかけられ、身体に触れられることで、“じねんじょに来たな”“今から活動が始まるな”と、心の面でも体の面でも準備ができるよう、「じねんじょ体操」を定着させていきたいと思います。



成人の祝い

令和3年11月11日(木)に、成人を迎える2名のメンバーたちのお祝いをしました。

20年間、泣いたり笑ったり、たくさんの思い出があったと思います。これからも、素敵な思い出ができるよう、サポートしていきたいです。



生活の質と免疫力の向上を目指した 重症心身障害児・者の栄養管理の研修を受けて



令和3年12月2日(木)びわこ学園医療福祉センター草津 施設長 口分田 政夫先生より「生活の質と免疫力の向上を目指した重症心身障害児・者の栄養管理」と題し、重症児の栄養管理について貴重なお話を聞きしました。**理事長が司会進行役を務め、コロナ禍のため対面ではなく、リモートでの研修参加となりました。**

紹介された事例では、栄養を増やし間食を取り入れることで、感染症の頻度が改善したなどの報告がありました。栄養剤には栄養素は入っていますが、不足している栄養素がたくさんあることを知りました。胃瘻からのペースト食注入では、1日のうち一食をペースト食に置き換える「食べられるだけでいいよ」と伝え、食べられなかった分は胃瘻から注入する方法もあります。食事を胃瘻から食べることは、食事の香り・味を楽しむことができ、家族と同じ食事を食べられるということが大切だと感じました。体調は日々違うため観察を行い、医師・リハビリ・栄養士などと情報共有をしながら、研修で学んだことを役立てていきたいと思います。

放課後等デイサービス事業

むく



人形劇、歌、合唱でにぎわったクリスマス会。お正月遊びでは、獅子舞登場で頭をガブッと噛んでもらい、無病息災を祈願。

むくは季節を感じながら楽しく活動しています。

楽しいなあー!!



ポン ポコ ポン♪

キャ～!?
かじられた～



居宅介護事業所ヘルパーステーションふわり ~在宅でのケアの方法~

じねんじょ通信『大地』VOL.35ではノーリフトケアについての考え方を書かせていただきました。

今回は、わたしたちヘルパーステーションふわりが実際に取り組んでいる在宅でのノーリフトケアについてご紹介いたします。「抱え上げない介助」というと大掛かりなリフトなどの導入を想像される方もいらっしゃるかもしれません、この度取り上げるのは片手で運べる板状の移乗用具、フレックスボード（ラックヘルスケア株式会社）です。これは、臥位姿勢のままバギー（もしくは車いす）とベッド間の移乗を横に滑らせるように行うことができる道具です。重症心身障害のメンバーはバギーや車いすからベッドへ姿勢を変えたり移動したりするのに介助者の知識・技術・体力が必要であり、メンバー自身も大変な思いをすることがあります。フレックスボードを活用することで、抱え上げられることへの不安感や筋緊張、無理な姿勢による不快さを軽減することができます。毎日何度も行っている移乗動作が少しでも安全で安楽になるとメンバーもご家族も少し気持ちに余裕が生まれるのではないかでしょうか。

使用にはバギーや車いす、ベッドなどの環境を整える必要がありますが、ご自宅でのケアが今より少しでも安全・安心・安楽になることを願ってご紹介させていただきました。

寄付者氏名

令和4年2月24日現在(順不同、敬称略)

- ・やまぐち小児科・(株)茶山電機
- ・陶芸サロンじねんじょ窯・YSP山口連合会
- ・高崎龍子・大畑一郎・(株)松岡・匿名希望

ありがとうございました!

編集後記

今号は、Jマルシェの活動報告と、日中活動の取組の報告を主にさせていただきました。新型コロナウイルスの影響もあり、地域の方との交流が難しい中でも、何かできる方法がないか考えながら開催してきました。昨年よりSNSも活用して情報発信をしているので、そちらもぜひ覗いて見てください。

SNS
Facebook



Instagram

